

琵琶湖総合保全整備計画
マザーレイク 21 計画
<第2期改定版>

思いをつなぎ、命をつなぐ。
母なる湖のもとに



滋賀県

マザーレイク 21 計画とは…

琵琶湖は、水資源としてだけでなく、豊かな生態系を育み、その周りに住む人たちによって固有の文化や景観が形成されるなど、多様な価値を持っています。

高度経済成長期を経て、私たちは安全・安心で便利な暮らしを手に入れました。

しかしその一方で、普段の暮らしの中で川や琵琶湖との関わりが薄くなり、身近な生態系の変化に気付くことが難しくなってしまいました。

こうした反省から、滋賀県では、国の6つの省庁*が平成9年度(1997年度)から2カ年にわたり共同で実施した「琵琶湖の総合的な保全のための計画調査」をふまえて、琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐための指針として、平成12年(2000年)3月に、琵琶湖総合保全整備計画(マザーレイク21計画)を策定しました。

*国土庁・環境庁・厚生省・農林水産省・林野庁・建設省(1999年3月当時)

計画が新しくなったよ。



段階的な計画目標

マザーレイク21計画では、2050年頃の琵琶湖のあるべき姿を念頭に、平成11年度(1999年度)から平成22年度(2010年度)までを第1期、平成23年度(2011年度)から平成32年度(2020年度)までを第2期として、琵琶湖を保全するための幅広い取り組みを進めています。

今回、第2期の開始に当たって計画の改定を行い、2010年度までの第1期計画期間の評価をふまえて第2期計画期間の目標を設定しました。

長期計画なので、現時点では予測できない環境や社会の変化が起こることも考えられます。このため施策の効果を把握・評価し、それらをもとに見直しを行う仕組みを取り入れるなど、柔軟な計画としました。

計画を見直しながら目標達成を目指すんだね。



第2期目標

■琵琶湖流域生態系の保全・再生 ■暮らしと湖の関わりの再生

<つながりへの配慮>
湖内・湖辺域・集水域を行き来する在来生物の増加

<湖内>
良好な水質と
栄養塩バランス
の回復

多様で豊かな
在来生物群集
の再生

<湖辺域>
絶滅に瀕する
在来種の種数と
外来種の減少、
在来魚介類の
再生産の回復と
漁獲量の増加、
湖岸景観の回復

<集水域>
適切に管理された
森林や生物多様性
に配慮した農地の
増加と在来生物の
回復

<つながりへの配慮>
地域を越えた活動のための仕組みづくりと、
普段の生活の中での湖との関わりの定着

<個人・家庭>
身近な水環境と
親しみ、自らの
ライフスタイル
を見直していく
人の増加

<生業>
(なりわい)
琵琶湖流域保全
と調和した生業
の活性化と、
企業による地域
の環境や文化の
保全・再生活動
の活発化

<地域>
地域固有の環境、
文化や歴史の再
評価と、それら
を保全する活動
や取り組みの
活発化

あるべき姿

■活力ある営みの中で
琵琶湖と人とが
共生する姿



第1期目標
■水質保全 昭和40年代前半レベルの 流入負荷
■水源かん養 降水が浸透する森林、農地 等の確保
■自然的環境・景観保全 生物生息空間(ビオトープ) をつなぎネットワーク化 するための拠点の確保

1999年度

2010年度

第1期

第2期

2020年度

2050年度

将来・長期

第2期改定版のポイント

琵琶湖とその集水域はつながっており、全体で一つの生態系を形作っています。

このことから、第1期で設定した3つの柱である「水質保全」「水源かん養」「自然的環境・景観保全」を、生態系の保全・再生の視点から一つのシステムとして捉え、取り組みを進めていきます。

また、取り組みを進める上では、私たちの暮らしを見直すことが必要であり、暮らしの中で湖への関心や理解を深めていきます。

①新たな計画の方向性

目標の達成の度合いは、次の2種類の指標を用いて評価します。

一つめは、事業や施策がどれだけ進んだかを表す指標(アウトプット指標)です。

二つめは、水質や湖魚料理を食べる人の割合など、事業や施策に取り組んだ結果現れる琵琶湖の環境や社会の状態を表す指標(アウトカム指標)です。

②2種類の評価指標

目標の達成に大きく貢献することが期待でき、関連機関が連携することでさらに効果を高めることができる事業・施策を重点プロジェクトに位置づけて取り組みます。

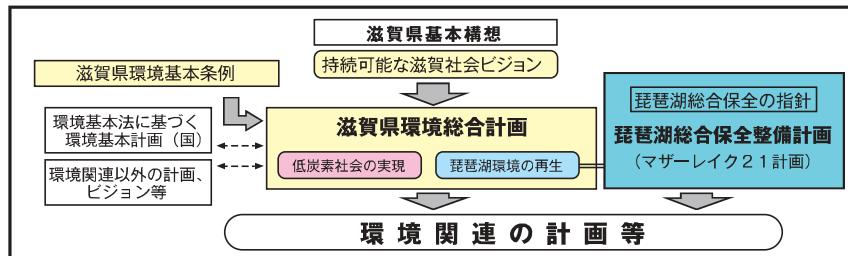
③重点プロジェクト

県民、事業者、専門家、市町、県などが分野を超えて交流できる場として「マザーレイクフォーラム」を設置します。マザーレイクフォーラムは計画の進行管理を行い、評価・提言をする場でもあります。

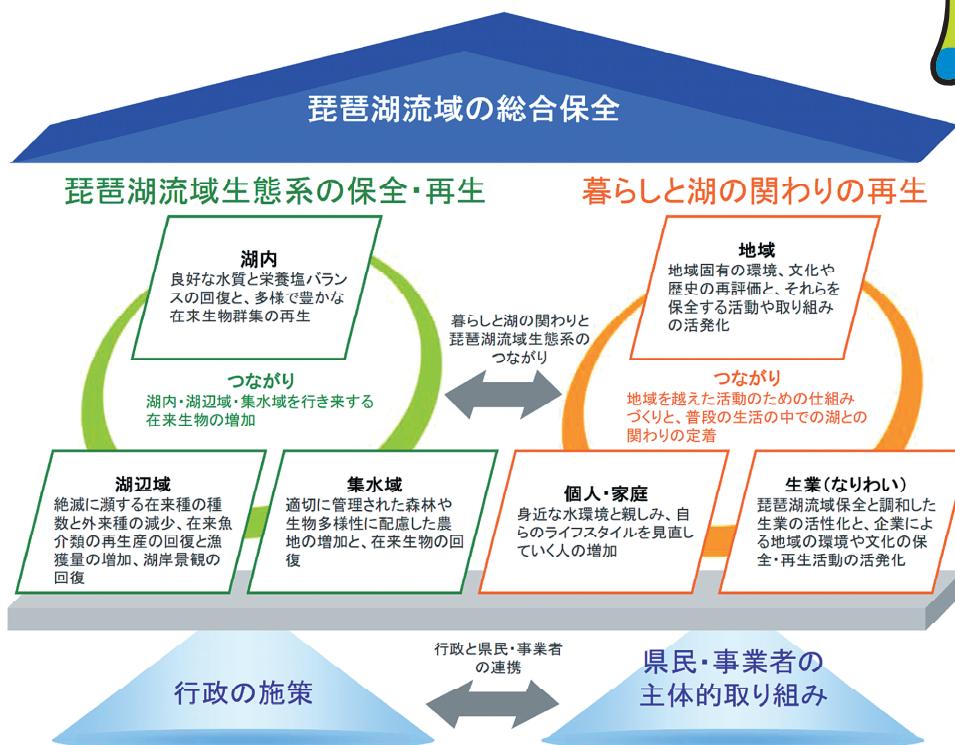
④マザーレイクフォーラム

○マザーレイク21計画と滋賀県基本構想など、他の計画との関係

マザーレイク21計画は、滋賀県環境総合計画とともに県の環境保全に関する様々な計画の上位に位置しています。



①新たな計画の方向性



第2期では、琵琶湖とその集水域全体を一つの系(システム)として捉えます。

森から里へ、そして湖へと流れていく水がもたらす様々な恵みが、安定して持続的にもたらされるよう、第1期で設定した「水質保全」「水源かん養」「自然的環境・景観保全」の三つの柱を「琵琶湖流域生態系の保全・再生」としてまとめ、一体的に取り組みます。

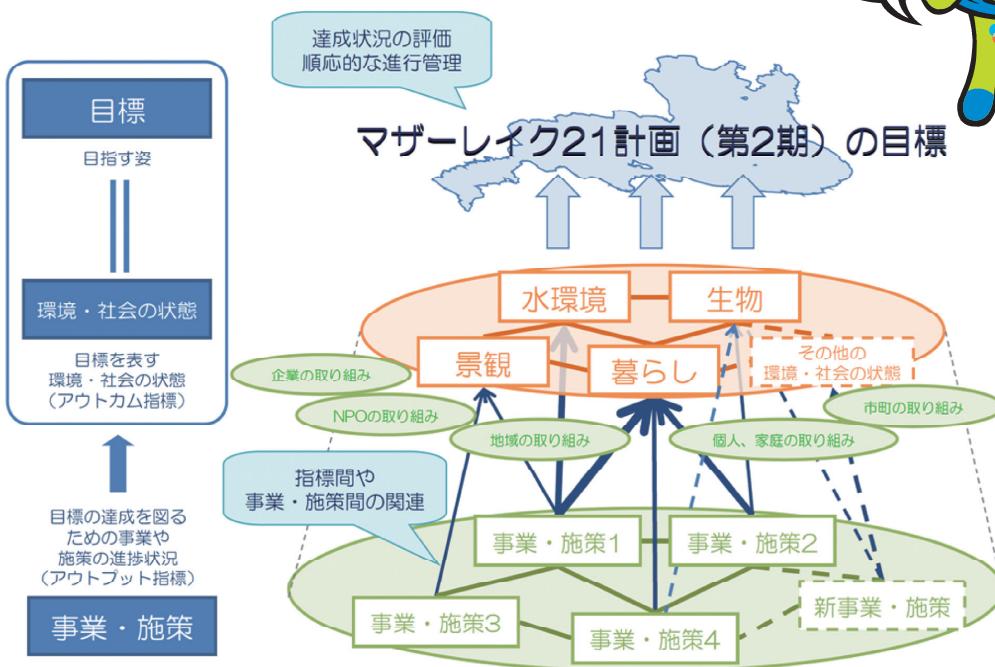
取り組みに当たっては、琵琶湖流域を「湖内」「湖辺域」「集水域」の3つの場に分け、それらの「つながり」と合わせてそれぞれに目標と指標を設定します。

また、私たち人間も琵琶湖流域生態系の一員です。したがって、琵琶湖流域生態系の保全・再生のためには、湖への関心や理解を深め、自分自身の暮らしのありようを見直し、ライフスタイルを変えることが必要です。このことから、第2期では新たな柱として「暮らしと湖の関わりの再生」を位置づけます。

取り組みに当たっては、「個人・家庭」「生業(なりわい)」「地域」の3つの段階に分け、それらの「つながり」と合わせてそれぞれに目標と指標を設定します。

② 2種類の評価指標

2種類の指標で
計画を評価
するんだね。



これまで、計画の成果は主に個々の事業や施策がどのくらい進捗したかで評価していました。しかし、重要なのは、事業や施策を実施した結果が、琵琶湖の保全につながっているかということ、つまり、琵琶湖や流域の水質や生き物の状態が改善されたかどうかということです。

このことから、第2期では、**施策の進捗状況を表す「アウトプット指標」**に加えて、**環境や社会の状態を表す「アウトカム指標」**を設定することにしました。

また、個々の指標は独立して存在しているわけではなく、相互に密接に関連しています。目標の達成に向けて、指標がバランスよく改善されているかどうか、想定外の障害の兆しが現れていかないかどうかは順応的な進行管理の仕組みの中でチェックします。

「アウトプット指標」の例

汚水処理施設整備率 水稲における環境こだわり農産物栽培面積の割合 ニゴロブナの種苗放流尾数 水草根こそぎ除去面積 ヨシの植栽面積 年間間伐実施面積 びわ湖まちかどむらかど環境塾開催地区数 「おいしが うれしが」キャンペーン登録店舗数 マザーレイクフォーラムへの参加団体数 など

「アウトカム指標」の例

琵琶湖の水質 赤潮・アオコの発生日数・水域数 ニゴロブナの漁獲量 外来魚生息量 水草群落面積 琵琶湖のヨシの面積 カイツブリの生息数 月1回以上湖魚料理を作り・食べる人の割合 琵琶湖や河川を大切に思う人の割合 など

③重点プロジェクト

目標の達成に大きく貢献することが期待でき、関連機関が連携することでさらに効果を高めることができる事業・施策を重点プロジェクトと位置づけ、集中して取り組みます。

目標の達成に
向けて取り組む
プロジェクトだ。



「近い水」のある暮らし再生プロジェクト

水と関わる生活、文化、歴史が息づき、人々が日常生活の中で琵琶湖の恵みを享受し、琵琶湖への感謝と気づかいが根付いている「近い水」のある暮らしを実現します。また、下流淀川流域の人たちにも呼びかけ、下流への思いやりと上流への感謝が重なる「飲水思源*」の気持ちを育み、取り組みを一層広げます。

*「その実を落とす者はその樹を思い、その流れに飲む者はその源を思う」という、北周の詩人・癡信の「徵調曲」という詞に基づく故事成語。飲み水の源を忘れないようにすること。

琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト

南湖再生プロジェクト

良好な環境と適正な人間活動とのバランスの中で、水草の繁茂状況をかつての状態に戻すとともに、ニゴロブナ・ホンモロコ・セタシジミの漁獲量を回復します。

内湖再生プロジェクト

内湖を再生することにより、在来魚や希少動植物など豊かな生態系を回復するとともに、暮らしを湖に近づけ、琵琶湖と人とより良い関係を築き、地域資源を活用した社会成長を図ります。

外来生物等対策プロジェクト

琵琶湖の生態系にとって喫緊の課題となっている外来魚やカワウ、外来水生植物等の駆除を図り、在来生物の生息・生育環境を回復させます。

森・川・里・湖のつながり再生プロジェクト

流域を一つの系として保全するための取り組みの方針を各主体・施策間で共有し、森・川・里・湖のつながりを生態系と暮らしの両面において再生します。

水環境の保全プロジェクト

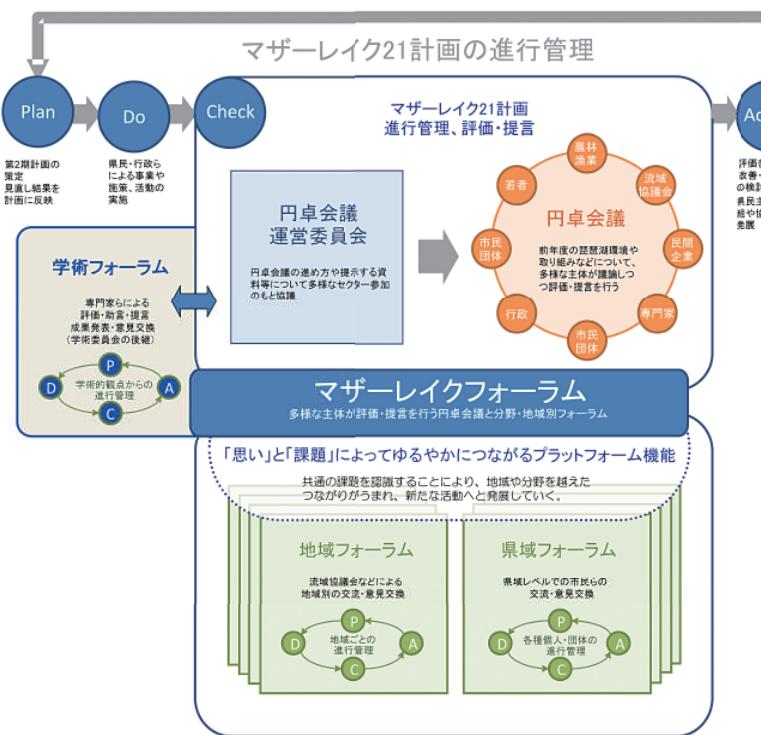
琵琶湖の水質汚濁メカニズムを解明し、新たに設定した汚濁指標に基づく水環境の保全対策への道筋を明示します。



作：成安造形大学
石田恵理 数野なぎさ 柴田翔子 (2011)

④マザーレイクフォーラム

みんなの参加
で計画を進め
ていこう。



計画の進行管理では、具体的な事業や施策の内容だけでなく、状況に応じ、目標や指標も修正を加える「順応的管理」という手法を取り入れます。

計画は、2種類の指標を用いて複層的な評価を行います。その際に多くのみなさんの参画の場となるのが「マザーレイクフォーラム」です。

マザーレイクフォーラムは、県民、事業者、専門家、市町、県などの様々な立場の人たちが、琵琶湖を守りたいという共通の「思い」と「課題」によってゆるやかにつながると同時に、みんなで計画の進行管理を行う場です。

そして、①琵琶湖流域の生態系の現状を確認し合い、②自らの暮らしと湖の関わりを振り返り、③今後の取り組みの方向性を話し合い、④相互のつながりを築きながら、それぞれの取り組みをさらに強みを活かしたものへと高めていく場でもあります。

マザーレイクフォーラムでまとめられた意見や提案は、県の施策にも反映させていきます。

これらの取り組みを通じ、下流淀川流域のみなさんとも手を取り合って県民総ぐるみで計画目標の達成を目指します。

2050年頃のあるべき姿

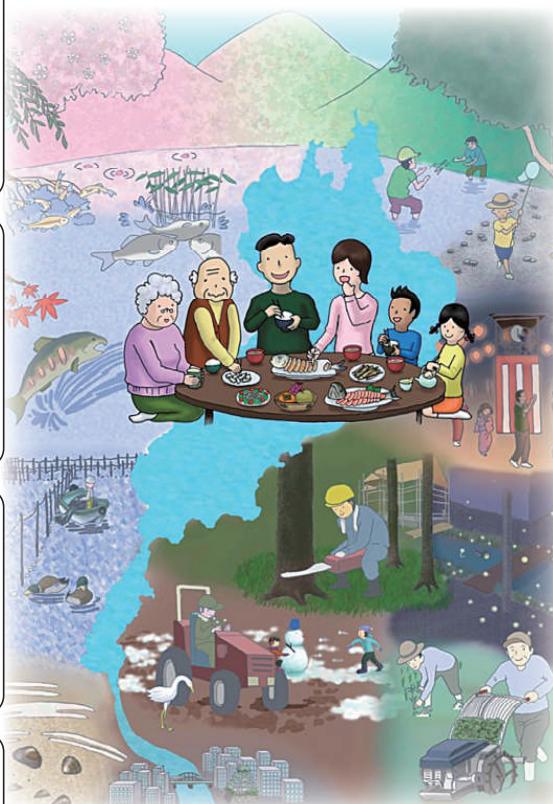
琵琶湖の水は、あたかも手ですくって飲めるように清らかに、満々として

春には、固有種のホンモロコやニゴロブナ等がヤナギの根っこ、ヨシ原、増水した内湖や水路等で産卵し、周囲の山並みは淡緑、淡黄等のやわらかな若葉と、常緑の樹々との鮮やかな彩りをみせ

夏には、緑深い山から吹く風が爽やかに湖面をわたり、湖辺の公園では、水遊びする人びとの姿が見られ、足もとにはさらさらした砂地と固有種セタシジミの感触

秋には、固有種のビワマスが体を赤く染めて河川や水路を山里深く遡上して、豊かな森の土に育まれた水量豊富な溪流で産卵し

冬には、えり漁を背景にカモが群れ遊び、湖辺では荒田起こしの作業の側で、サギが餌をついぱむ



作：成安造形大学
中浜稔文 中村亮太 (2011)

目を転じれば、**街中に**は四季を通じて小川が清らかに流れ、夏にはホタルが舞い、遠くから祭の囃子が聞こえ

近所の水辺には遊んでいる子どもたちの笑い声が響き、子どもたちを温かく見守っている大人たちの姿がいつもあり

光と風、木々や花々に季節の移ろいを感じながら、**家にあっては**、県内産の木の香りと温もりに包まれ、湖や地元でとれた旬の幸を家族や友人とともに味わい

どの生業（なりわい）も地域に深く根を下ろし、働くことへの悦びに人びとの顔が輝き

語り合い、ともに支えあい、**湖への感謝の心と気づかい**をつねに忘れることなく、琵琶湖を中心とする自然の大きな環のなかに、人びとの輪に根ざした暮らしがある



母なる湖・琵琶湖。
—あずかっているのは、滋賀県です。

琵琶湖総合保全整備計画
「マザーレイク21計画」<第2期改定版>
平成23年(2011年)10月28日改定

発行：平成24年3月
発行者：滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
〒520-8577滋賀県大津市京町四丁目1番1号
077-528-3463(直通) dk00@pref.shiga.lg.jp